

Ⅱ

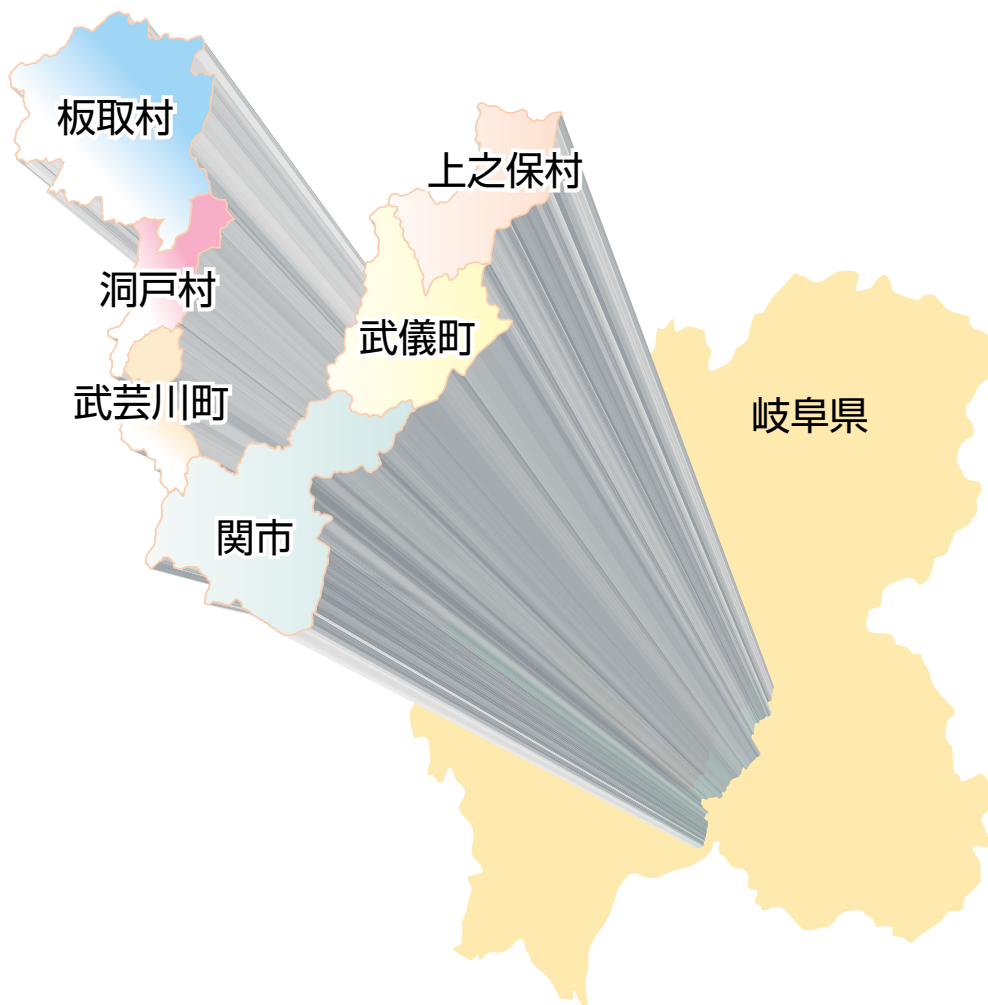
新市の概況

1 位置・地勢・面積

新市は、岐阜県のほぼ中央部に位置し、西は岐阜市、山県市、本巣市、南は各務原市、東は美濃加茂市、加茂郡、北は美濃市、郡上市、下呂市、福井県に接し、V字形の地形となっています。

洞戸・板取・武芸川北部地域※及び武儀・上之保地域※は、標高が高く緑豊かな山々に囲まれ、関・武芸川南部地域※は、濃尾平野が広がる田園都市地域です。

また、東西延長は約 34km 南北延長は約 43km であり、面積 472.84km² となり県土の 4.5%を占めています。



※洞戸・板取・武芸川北部地域

合併前の洞戸村・板取村及び武芸川町寺尾地区を指す。

※武儀・上之保地域

合併前の武儀町及び上之保村を指す。

※関・武芸川南部地域

合併前の関市及び武芸川町寺尾地区以外を指す。

2 自然環境

新市は、総面積の 80.9%を森林が占めるとともに、長良川が関地域を流れ、その支流である板取川が洞戸・板取地域を、武儀川が武芸川地域を、津保川が武儀・上之保地域を流れています。これらの河川は、豊かな自然生態系が維持保全され、住民生活に密着し、やすらぎとおいを与えています。

気候は、きわめて温和であり、平均気温は 15℃内外ですが、板取地域は、気温の日格差や年格差が大きく、降水量や積雪量も比較的多い地域です。



川面にきらめく津保川の春



秋映える南宮神社



夜空を彩る夏の花火



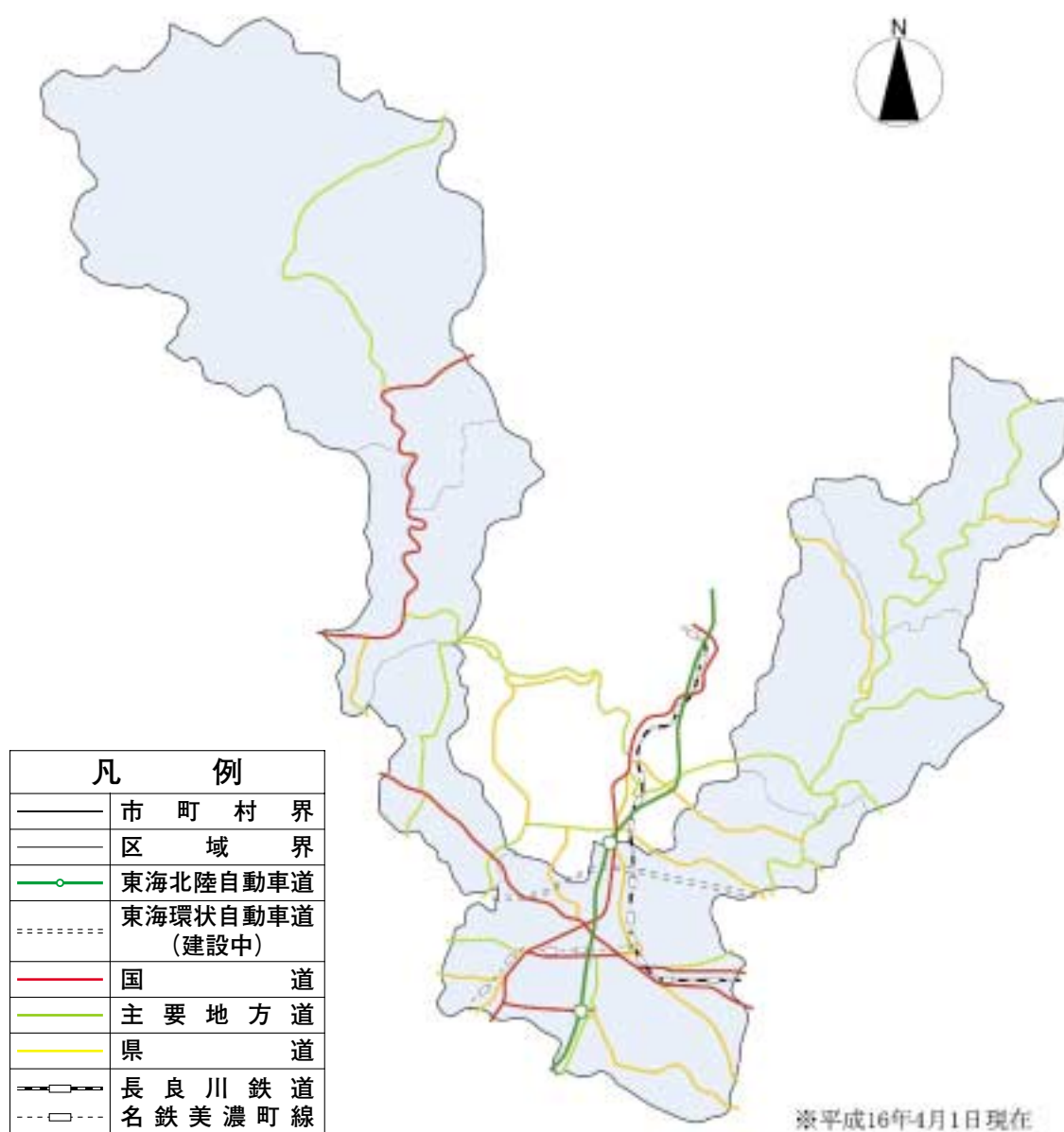
雪にたたずむ冬の川浦溪谷

3 交通

新市の道路状況は、一般国道 156 号・248 号・256 号・418 号が縦横に通り、それらの国道に連絡する主要地方道、一般県道が幹線道路となっています。

また、東海北陸自動車道や現在建設中の東海環状自動車道の開通は、内陸型工業都市・物流拠点都市として発展が期待される新市にとって重要な役割を果たすものと思われ、その未来に大きな期待がもたれます。

鉄道については、名鉄美濃町線と長良川鉄道が通っています。

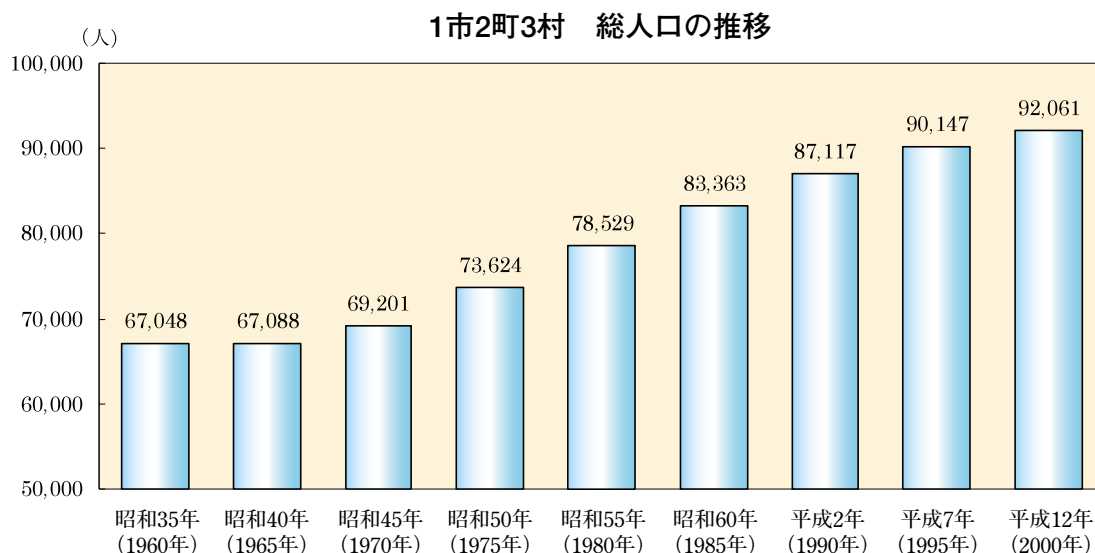


4 人口・世帯

1) 総人口

1市2町3村※全体の人口は、昭和35年以降堅調な増加をしており、平成12年国勢調査では、92,061人となっています。

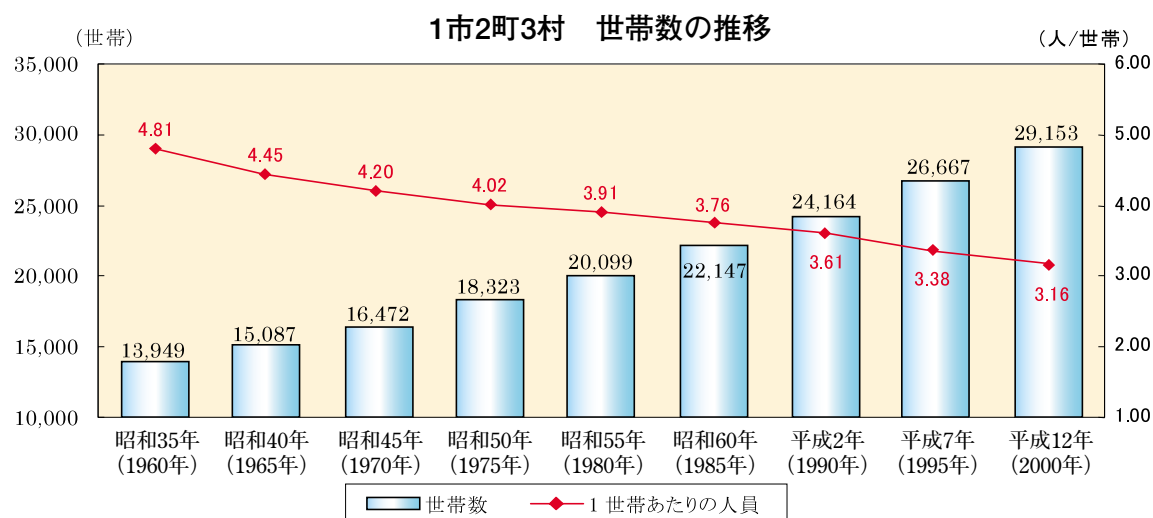
しかしながら、その増加は関市における人口の増加に負うところが多く、武芸川町は横ばい、洞戸村、板取村、武儀町及び上之保村の人口は過疎化の進行により減少の一途をたどっています。



資料：国勢調査

2) 世帯数

1市2町3村の世帯数は、平成12年国勢調査において29,153世帯を数え、増加を続けていますが、1世帯当たりの人員は、減少を続けており、核家族化が進行していることがうかがえます。

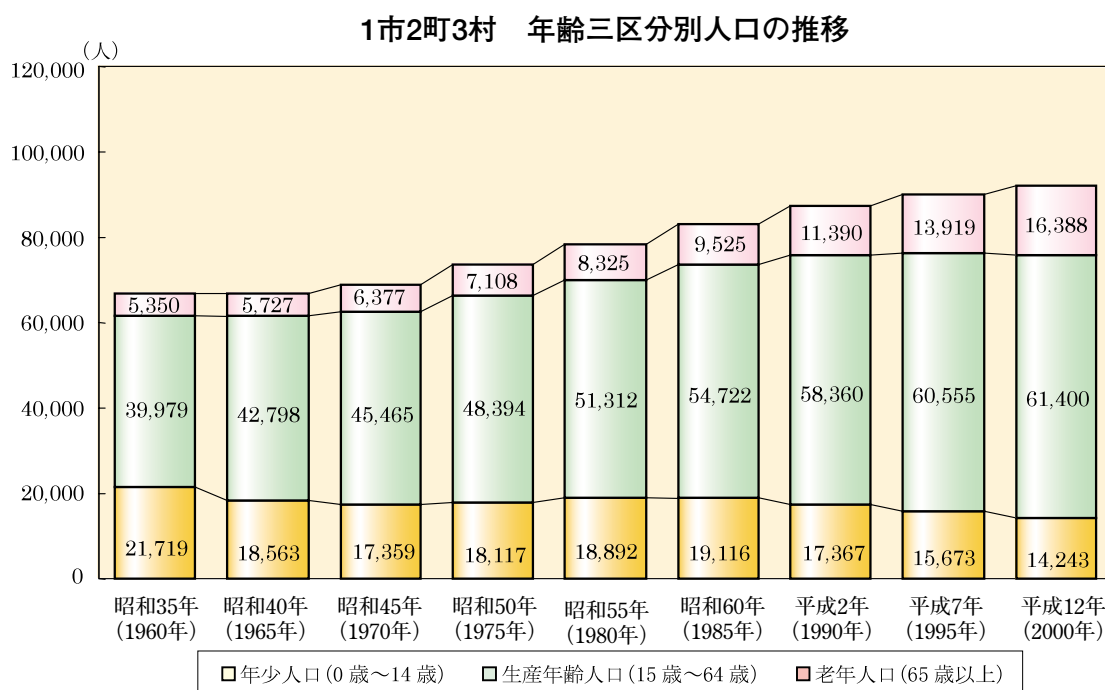


資料：国勢調査

3) 年齢三区分別人口

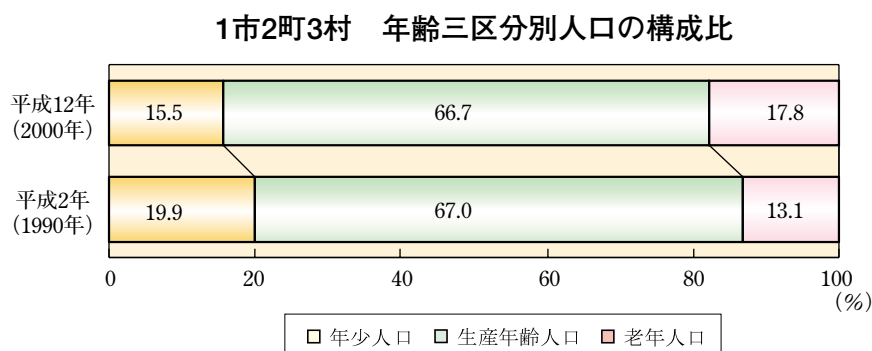
年齢別の構成比を見ると、平成 12 年国勢調査において年少人口（14 歳以下）は 15.5%、生産年齢人口（15 歳～64 歳）は 66.7%、老年人口（65 歳以上）は 17.8%となっています。

平成 2 年国勢調査と比較すると、年少人口は 4.4 ポイント減少し、老年人口は 4.7 ポイント増加しており、少子高齢化が進行していることがうかがえます。



※平成 12 年において、年齢不詳人口 30 名は算入していません。
また、昭和 50 年において、年齢不詳人口 5 名は算入していません。

資料：国勢調査



※1市2町3村

合併前の関市、洞戸村、板取村、武芸川町、武儀町及び上之保村を指す。

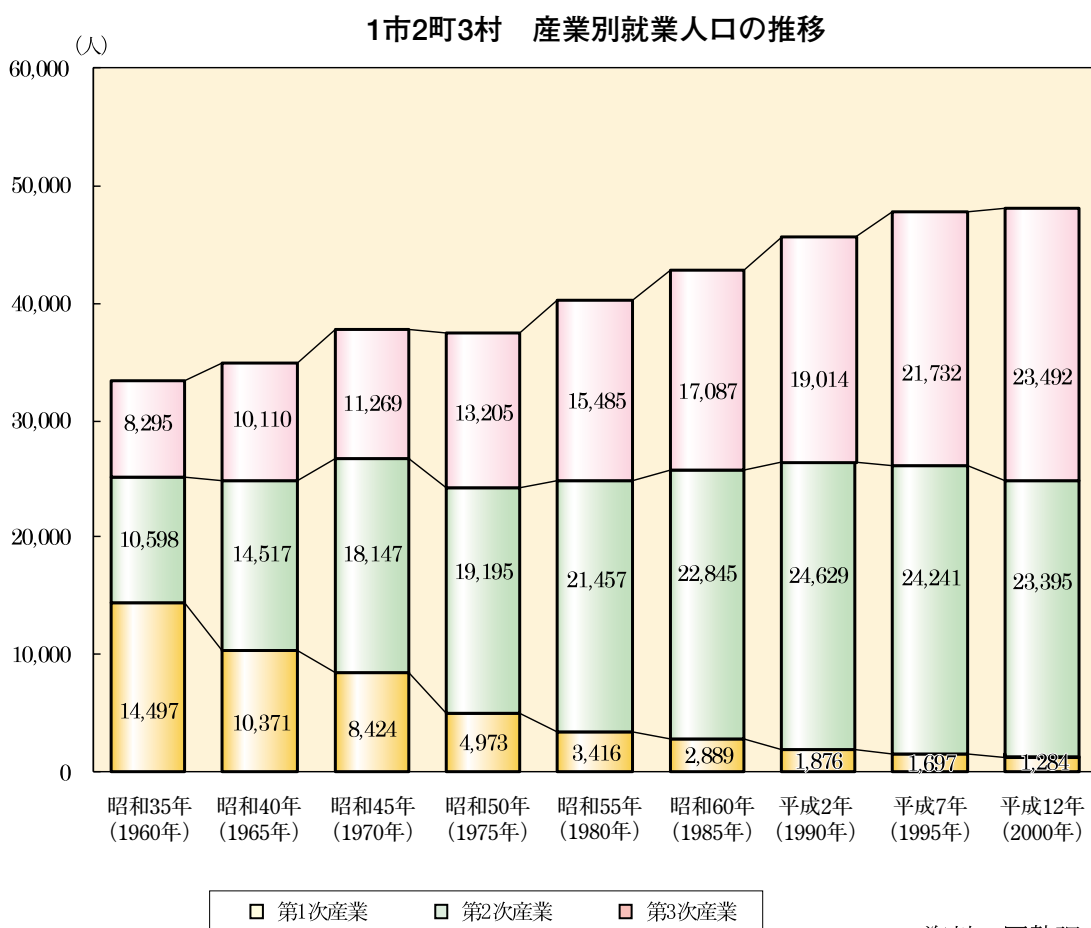
5 産業

1) 産業別就業人口

第1次産業は、昭和35年には14,497人を数えましたが、それ以降急激な減少を続け、平成12年には1,284人となり、この40年間で1割以下となっています。

第2次産業は、平成2年まで堅調に増加をしていましたが、それ以降減少を続けています。

また、第3次産業は、一貫して増加を続けており、産業のサービス化が進んでいることがうかがえます。



資料：国勢調査

2) 産業別就業構造

平成12年の国勢調査によると、1市2町3村の就業人口割合は、第3次産業が48.8%で最も高く、調査以来はじめて第2次産業を上回りました。

平成2年から平成12年にかけて、第1次産業は減少傾向にあります。

また、岐阜県全体と比べ第2次産業就業者の占める割合が高くなっています。

■就業構造の推移

単位：人

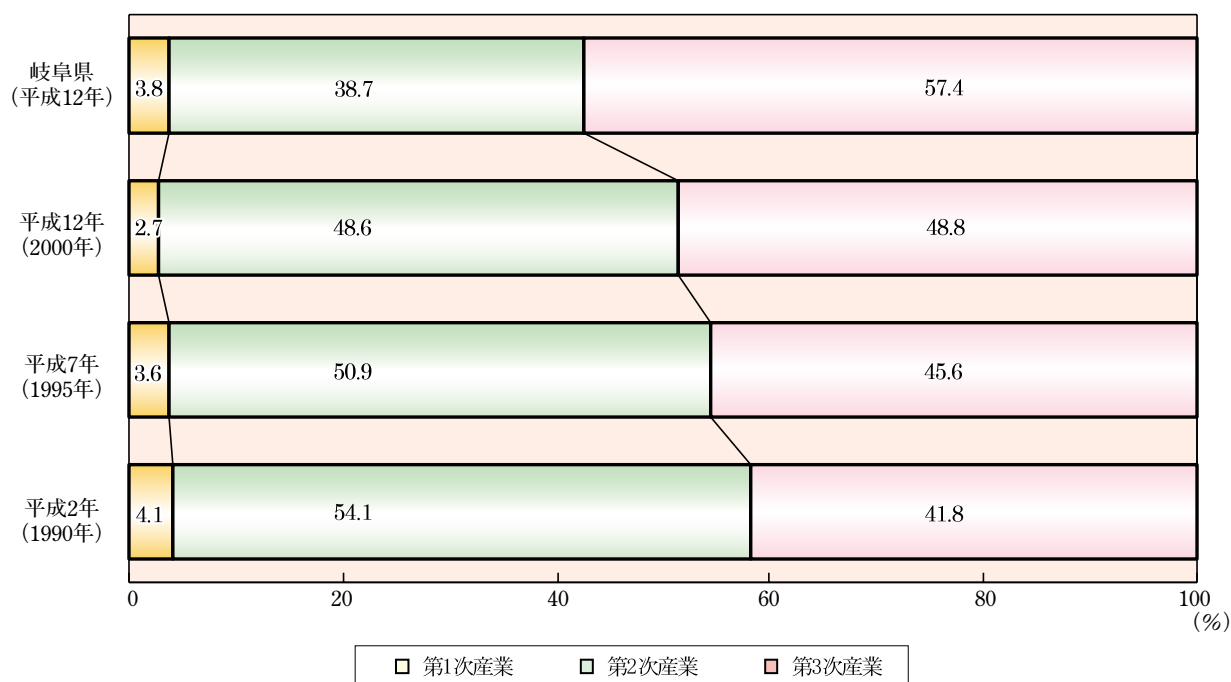
調査年	総数	第1次産業		第2次産業		第3次産業	
		人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比
平成2年(1990年)	45,519	1,876	4.1%	24,629	54.1%	19,014	41.8%
平成7年(1995年)	47,670	1,697	3.6%	24,241	50.9%	21,732	45.6%
平成12年(2000年)	48,171	1,284	2.7%	23,395	48.6%	23,492	48.8%
岐阜県(平成12年)	1,092,373	41,079	3.8%	422,661	38.7%	626,692	57.4%

注) 岐阜県の総数は分類不能の産業も含む。

資料：国勢調査

構成比率(%)は、四捨五入により合計比が100%にならない場合があります。

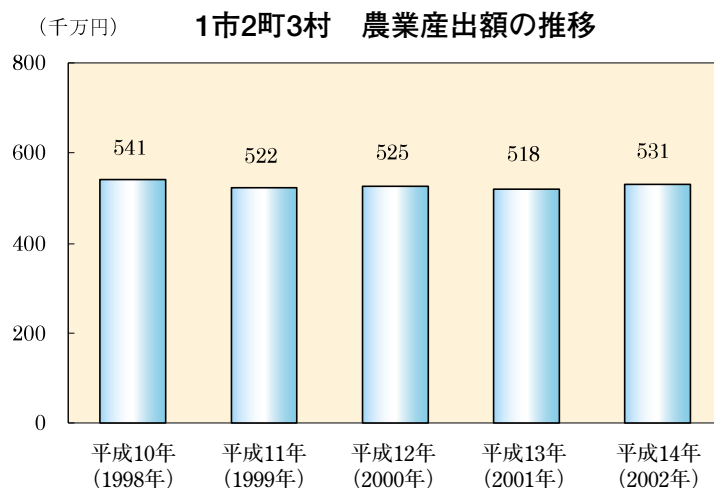
1市2町3村 産業別就業構造の推移



3) 各産業の状況

(1) 農林業

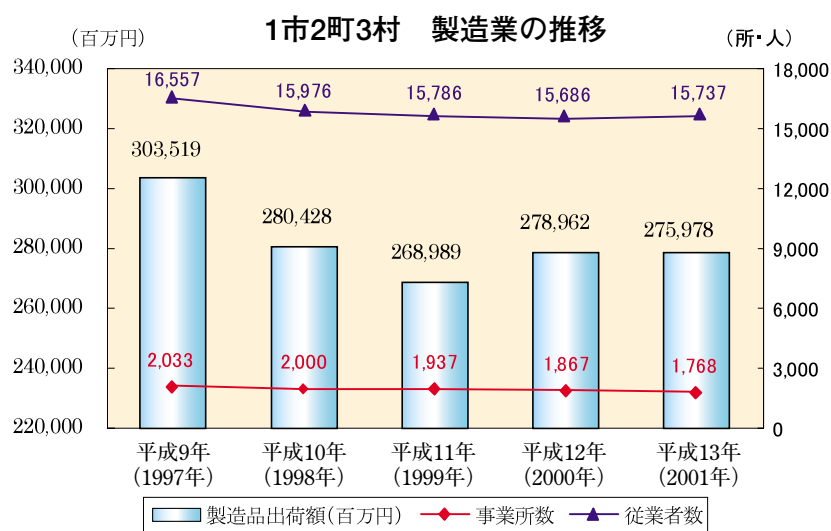
農林業は、主に稲作が盛んで、特産品はさといも円空・キウイフルーツ・奥美濃古地鶏・椎茸・津保茶などがあります。しかしながら、農林業従事者の高齢化が進んでおり、後継者の育成や新たな特産品の開発、ブランド化が課題となっています。



資料：生産農業所得統計

(2) 製造業

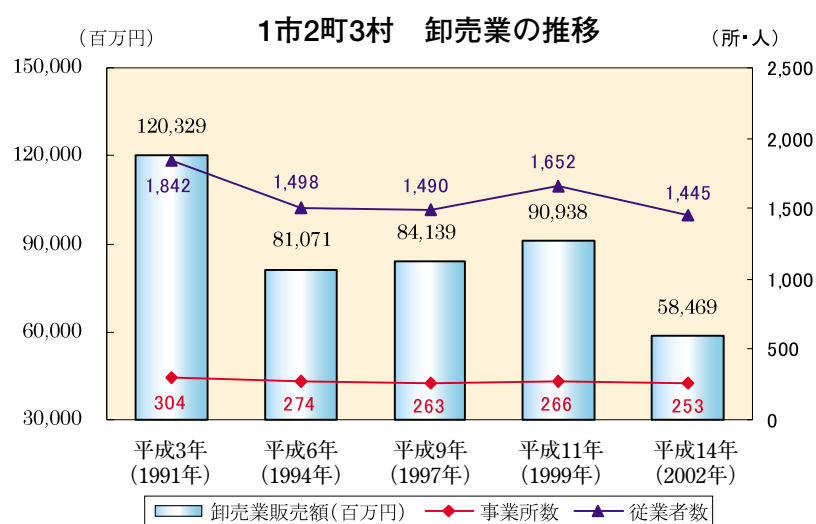
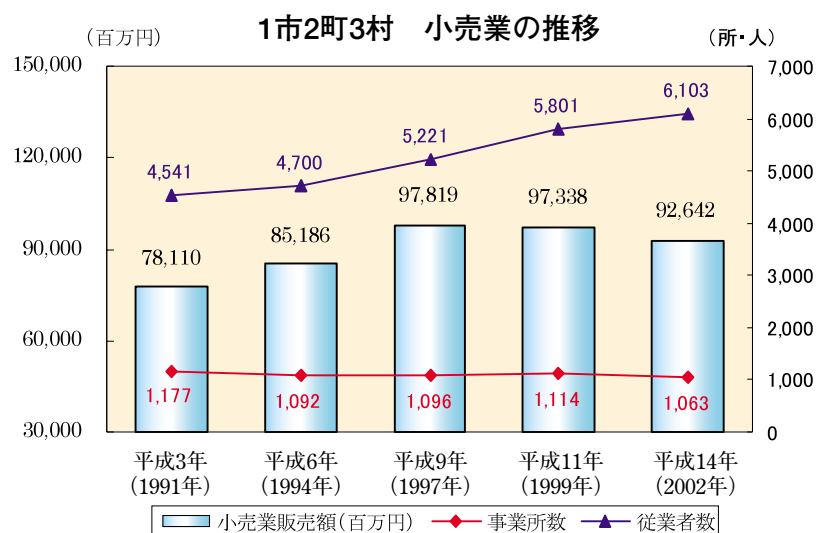
製造業は、事業所数が減少し、製造品出荷額も近年減少に転じています。業種別では、関地域の地場産業である刃物製品の出荷額が日本一となっています。また、武儀・上之保地域は木材産業が盛んです。しかし、近年の景気低迷は製造業に大きな影響を与えています。



資料：岐阜県工業統計調査

(3) 商 業

商業は、関・武芸川南部地域において商店数、従業者数、小売業販売額とも近年増加しており、市郊外への大型店舗の進出が大きく影響していると思われます。反面、洞戸・板取・武芸川北部地域及び武儀・上之保地域においては、商店数、従業者数、小売業販売額とも減少傾向にあります。

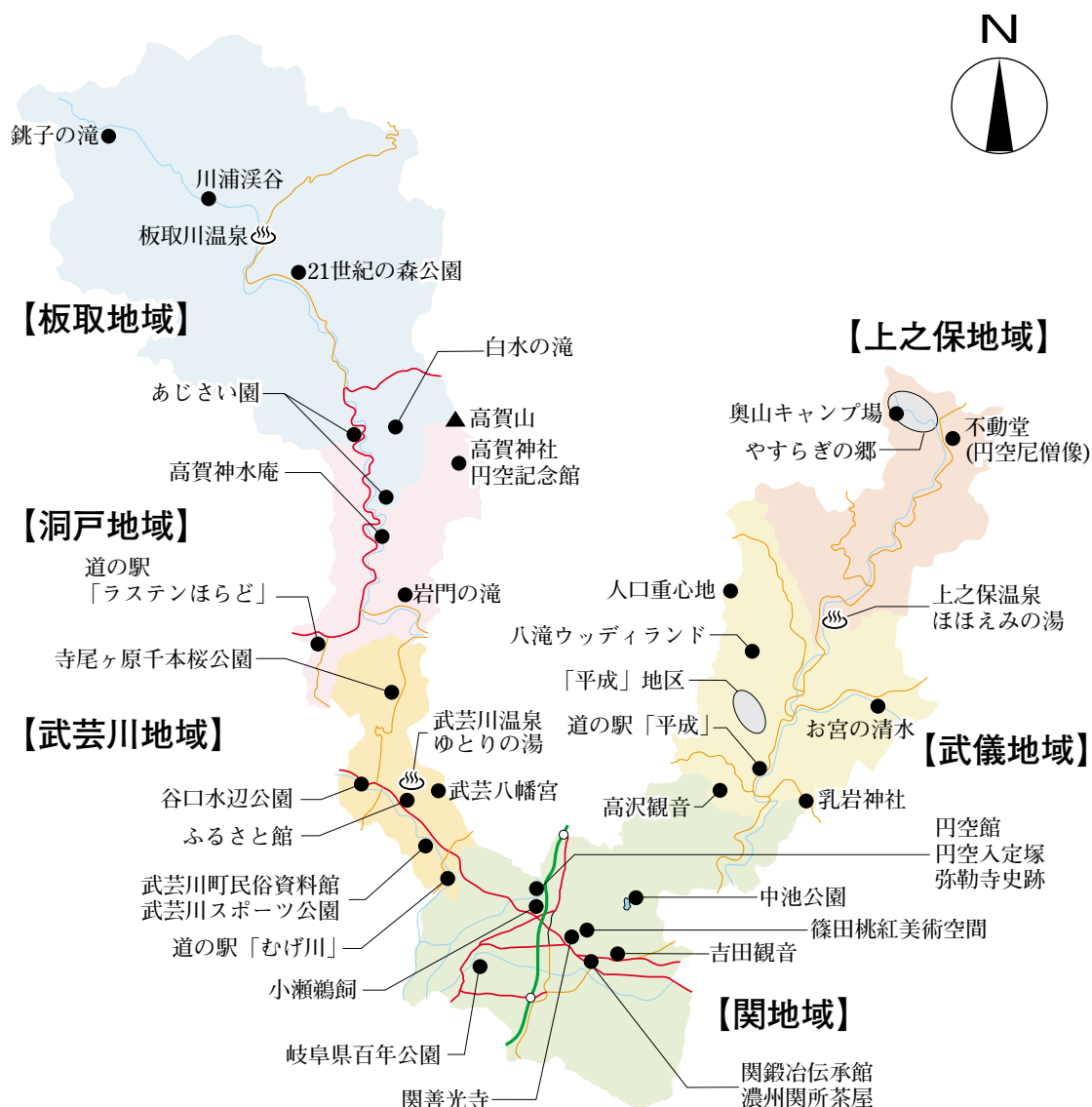


6 觀光資源

自然環境は、洞戸・板取・武芸川北部地域、武儀・上之保地域に広がる広大な森林や、溪谷、溪流、滝などの水資源があり、その一部は、風光明媚な「奥長良川県立自然公園」に指定されています。

また、名所・史跡等は、関・武芸川南部地域においては、小瀬鵜飼、弥勒寺史跡、円空入定塚、円空館、百年公園、関善光寺、吉田観音、関鍛冶伝承館、濃州関所茶屋、武芸川温泉ゆとの湯、ふるさと館、武芸八幡宮。洞戸・板取・武芸川北部地域は、高賀神社、高賀神水庵、高賀山、円空記念館、洞戸観光ヤナ、板取川温泉、川浦溪谷、キャンプ場、寺尾ヶ原千本桜公園。武儀・上之保地域は、高沢観音、「平成」地区、人口重心地、八滝ウッディランド、上之保温泉ほほえみの湯、奥山キャンプ場などがあります。

さらに、国道 256 号沿いに「ラステンほらど」、主要地方道岐阜美濃線沿いに「むげ川」、主要地方道関金山線沿いに「平成」の 3 つの道の駅があり、それぞれ地域の特性を活かした名産品が販売され、ドライバーや観光客の憩いの場として親しまれています。



7 行財政の状況

財政力指数^{*}は、1市2町3村では0.542となっています。

各市町村では、関市が0.694と最も高く、次いで武芸川町0.441、板取村0.378、武儀町0.187、洞戸村0.164、上之保村0.145の順になっています。

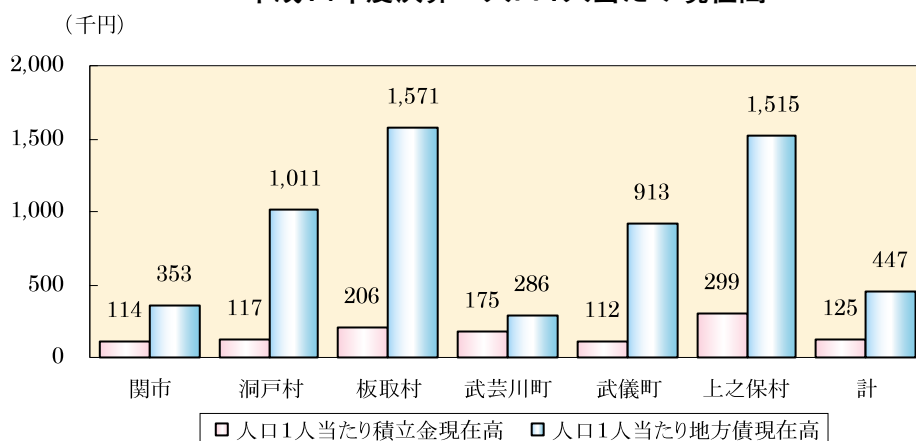
経常収支比率^{*}は、一般的に都市においては75%、町村においては70%程度が妥当と言われていますが、近年では全国的に経常収支比率が高まっています。

■1市2町3村の財政状況

平成14年度決算 普通会計 [*] ベース	関市	洞戸村	板取村	武芸川町	武儀町	上之保村	計
積立基金現在高	8,485,939	271,980	396,215	1,166,590	470,945	741,769	11,533,438
人口1人当たり	114	117	206	175	112	299	125
地方債現在高	26,288,846	2,342,408	3,017,775	1,912,193	3,852,614	3,761,300	41,175,136
人口1人当たり	353	1,011	1,571	286	913	1,515	447
経常収支比率	75.0	85.7	86.8	79.2	87.5	74.2	77.6
起債制限比率 [*] (H12～H14平均)	9.0	13.3	14.1	4.4	11.9	9.5	9.3
財政力指数 (H12～H14平均)	0.694	0.164	0.378	0.441	0.187	0.145	0.542

※積立基金現在高・地方債現在高については単位：千円、経常収支比率・起債制限比率については単位：％。

平成14年度決算 人口1人当たり現在高



※1人当たり現在高の算出にあたっては平成12年国勢調査人口を使用しています。

※財政力指数

市町村の財政力を示す数値で、標準的な行政サービスを行う経費に対する税金などの割合。1に近く、あるいは1を超えるほどに財政に余裕があるものとされる。

※経常収支比率

毎年度経常的に支出される経費（人件費・扶助費・公債費等）の、地方税・普通交付税など経常一般財源に対する割合。市町村の財政構造の弾力性を測定する比率であり、高くなるほど弾力性を失っていくと考えられる。

※普通会計

水道などの公営企業会計、国民健康保険などの事業会計、下水道事業などの公営企業法の全部又は一部を適用している会計以外の特別会計と一般会計を合算したもの。

※起債制限比率

経常的な一般財源のうち公債費に充てた比率のこと。この比率が20%以上になると、起債の一部が認められない一種の財政再建団体となる。

8 土地利用の状況

土地利用の状況は、森林が 80.9%と大部分を占め、農用地が 5.7%、宅地が 4.0%と続き、全体の 9 割を占めています。

今後、土地利用は、自然環境の保全を図りつつ、健康で文化的な生活ができるよう、総合的かつ計画的に進めなければなりません。

また、1 市 2 町 3 村は変化に富んだ地形を持つとともに、都市的地域、農村地域、森林・河川地域の利用に区別されます。

都市的地域では、今後の円滑な交通網整備とそれに伴う秩序ある開発が進むよう、土地利用を誘導する必要があります。

農村地域に関しては、営農の継続と自然との共生を図るために、土地利用のあり方が重要となります。

森林・河川地域に関しては、住民の環境資源として位置づけ、長期的な視野にたった保全と活用を検討しなければなりません。

■1 市 2 町 3 村の土地利用状況

単位：ha

地 目	関 市		洞戸村		板取村		武芸川町		武儀町		上之保村		計	
	面 積	構成比	面 積	構成比	面 積	構成比	面 積	構成比	面 積	構成比	面 積	構成比	面 積	構成比
森 林	4,225	41.2%	3,574	89.1%	18,209	97.2%	2,017	71.2%	5,812	89.1%	4,414	89.5%	38,251	80.9%
農 用 地	1,870	18.3%	71	1.8%	70	0.4%	279	9.9%	243	3.7%	152	3.1%	2,685	5.7%
宅 地	1,499	14.6%	72	1.8%	52	0.3%	159	5.6%	81	1.2%	36	0.7%	1,899	4.0%
道 路	644	6.3%	79	2.0%	120	0.6%	92	3.3%	138	2.1%	103	2.1%	1,176	2.5%
河川・水路	536	5.2%	157	3.9%	180	1.0%	99	3.5%	97	1.5%	60	1.2%	1,129	2.4%
そ の 他	1,477	14.4%	55	1.4%	104	0.5%	185	6.5%	156	2.4%	167	3.4%	2,144	4.5%
計	10,251	100.0%	4,008	100.0%	18,735	100.0%	2,831	100.0%	6,527	100.0%	4,932	100.0%	47,284	100.0%

資料：岐阜県統計書（平成14年版）

1市2町3村 土地利用の状況

